

洋ランの日々の管理方法(植え替え)

出典: NHK出版「みんなの趣味の園芸」 ホームページより (2001.04.03)

属名など	用土	植え付け、植え替え	ふやし方
【コチョウラン】 Phalaenopsis	水ゴケ、洋ラン用パーク、ヤシ殻チップをそれぞれ単体で使用します。植え込む鉢は、水ゴケの場合は素焼き鉢、洋ラン用パーク、ヤシ殻チップの場合はプラスチック鉢植えとします。	2年に1回程度行います。春の終わりから初夏(5月上旬から6月下旬)が一番の適期で、この時期に植え替えるとその後の生育がたいへんよくなります。ただし、真冬でも室温が20 程度ある場合は、季節を問わず植え替えが可能です。	わき芽をあまり吹かず、ふやしにくい種類です。まれに出てくるわき芽が大きくなったときに分けるか、花茎に高芽ができたときに根が伸びてから切り取り植えます。
【デンドロビウム】 Dendrobium <ノビル系>	水ゴケと素焼き鉢の組み合わせか、細かめの洋ラン用パークとプラスチック鉢との組み合わせで植え込みます。	植え替えは2年に1回程度、春の花後に行うのが標準。春遅くに開花した場合は、早めに花を切って植え替えを行います。	バルブの上部に高芽を比較的多く出します。高芽が小さなバルブになり、根を伸ばしたところを見計らって指で摘み取り、水ゴケで小さな鉢に植えつけます。また、株が大きくなった場合はバルブを4本程度ずつつけて株分けも可能です。
<キングアナム系>	水ゴケと素焼き鉢の組み合わせか、細かめの洋ラン用パークとプラスチック鉢との組み合わせで植え込みます。	植え替えは2年に1回程度、春の花後に行うのが標準。春遅くに開花した場合は、早めに花を切って植え替えを行います。	春に株分けをしてふやします。あまり小さく分けると生育不良になるので、最低でも5バルブ程度はつけるようにします。株の頂部に高芽を出すこともあるので、その場合は高芽に根が出てきてから摘み取り小さな鉢に植えつけます。
原種:ロディゲシ	【あるHPでは】栽培は容易です。ミズゴケ植えやヘゴなどにくっつけます。水は好むほうですが咲いてくれません)。風通しよく明るいところに置きます。やや暗くても育ちますが花つきが悪くなります。寒さには強いほうで寒風と霜を避け乾燥気味にすると屋外で越冬してくれます(寒冷地では保護が必要です)。増殖は春の植え替え時に株分けや高芽を取って植えます。		
<デンファレ系> <フォーサモス系>			
【デンドロキラム】 Dendrochilum	植え込み材料は、洋ラン用パークか、水ゴケのどちらかを選ぶのが一般的です。洋ラン用パークは乾きやすいので、容器はプラスチック鉢を選ぶとよいでしょう。	4月から6月中旬に行います。傷んだ植え込み材料を取り除き、一回り大きな鉢に植え替えます。植え込み材料を変更する際は、古い植え込み材料をできるかぎりきれいに落としてください。このとき、根を傷めないようにていねいに少しずつ作業します。	株分け:4月から6月中旬、9月中旬から10月に株分けでふやすことができます。自然に分けられそうな位置を探し、手で分けます。絡んだ根は無理に引き裂かず、消毒済みのハサミで切り分けましょう。切り口に殺菌剤を塗布しておく安心です。
【ディネマ】 Dinema	水ゴケを使い、素焼き鉢に植えるのが一般的です。プラスチック鉢でも栽培できますが、冬期の気温が低いときに湿らせすぎにしないような管理が必要になります。	植え替え、株分けは春4月ごろに行うとよいでしょう。2号鉢程度に1回植えたら、大きくはみ出てくるまで植え替えの必要はありません。鉢は素焼き鉢植えが一般的です。株をいろいろな形状に仕立てるのもやはり春に行うのがよいでしょう。工夫がいろいろと楽しめます。	リードバルブ(最先端のバルブ)や新芽を含め3~5バルブずつに切り分けてふやせます。
【エピデンドラム】 Epidendrum	化粧鉢やプラスチック鉢に、細かめのパークで植えます。水ゴケで素焼き鉢に植えることもできます。比較的背が高くなる植物ですから、化粧鉢などのやや重めの鉢を使ったほうが転倒防止にもよいでしょう。	2年に1回程度植え替えを行います。株分けをする場合は、あまり株を細かくしないように注意します。茎の本数が多いほうが見事に咲くので、比較的大きな株を維持するようにしましょう。	株分け:適期は4月です。根鉢をていねいにほぐして、分けられそうな位置でほぐし分けます。手で分けられない場合は、消毒済みのハサミで切り分けます。
【ハウエアラ】 Howeara			
【マキシラリア】 Maxillaria	水ゴケで素焼き鉢に植えます。大株になったら、大きな化粧鉢やプラスチック鉢を利用し、洋ラン用パークの小粒(S粒)で植えるとよいでしょう。	植え替えや株分けは原則的に春に行います。比較的長い期間同じ鉢に植えておいても育つので、鉢いっぱいになってから、一回り大きな鉢に植え替えるか、株分けをします。	株分けでふやします。3バルブずつの小さな株に分けてもよいし、もう少し大きな塊で分けても大丈夫です。好きなサイズでふやしてみましよう。
【マスデバリア属】 Masdevallia	植え込み材料として、洋ラン用パークや、水ゴケを使います。プラスチック鉢に植えるときは洋ラン用パークを、乾きやすい素焼き鉢に植えるときは、保水力のある水ゴケを植え込み材料に選びます。	植え替えの適期は10月から11月です。ただし、生育初期の3月から4月上旬であれば、まだ間に合います。水分を好むランなので、植え込み材料は水ゴケがおすすめです。蒸れが気になるのであれば、通気性がよいパーク植えでもよいでしょう。	株分け:適期は10月から11月です。大株になったために蒸れが生じ、株が衰弱することもあります。春に株分けするのなら、できるだけ早いうちに行います。遅くなると暑い時期までに株が回復せず、衰弱してしまうこともあるので要注意です。
【オンシジウム】 Oncidium	洋ラン用パークや、水ゴケを植え込み材料として利用します。乾きやすい洋ラン用パークはプラスチック鉢と組み合わせ、保水力のある水ゴケは、素焼き鉢と組み合わせるのが一般的です。	適期は3月下旬から4月上旬です。新しい鉢に根鉢を入れたときに、新しいバルブ側に、指2~3本が入るすき間があるサイズを選びます。バルブが鉢縁にせり上がるように成長した株は、植え込み材料に傾斜をつけて、古いバルブをやや深めに、新しいバルブ側を高くに植えて、株が傾いて見えないように植えます。	株分け:適期は3月下旬から4月上旬。オンシジウムはおう盛に育つと、自然に2株に分かれることが多く、株分けしやすい傾向にあります。分けるときは、分けたあとの株の大きさよりも、新芽の数が均一になるようにしましょう。根鉢は、ピンセットや割りばしでていねいにほぐし、古い植え込み材料と傷んだ根を取り除いておきます。根をほぐすと、自然に2株に分かれますが、分けられない場合は、消毒済みのハサミで根を切り分けます。